

平成 29 年春期 システム監査技術者試験 合格発表 アイテックコメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2017,6,21

4 月 16 日 (日) に行われた平成 29 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、システム監査技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

■システム監査技術者試験 (AU)

[平成 29 年春期のシステム監査技術者試験 統計情報]

応募者	4,151 人
受験者	2,862 人
合格者	433 人
合格率	15.1%

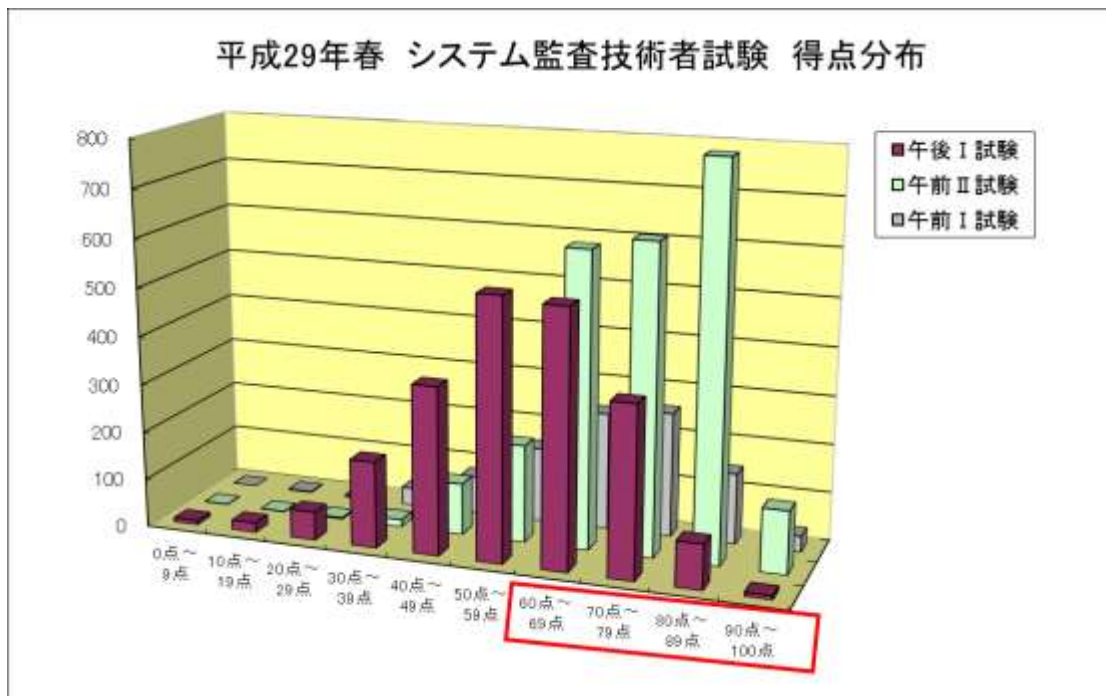
平成 29 年春期のシステム監査技術者試験の合格率は 15.1%で、前回の 14.3%に対して微増でした。まず始めに、新試験で従来の午前試験が分割された午前 I と午前 II の試験の分析結果をお知らせします。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[平成 29 年春 システム監査技術者試験 スコア分布]

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後 I 試験	午後 II 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	1	9	D 66	
10 点 ~ 19 点	2	1	20	C 120	
20 点 ~ 29 点	4	3	59		
30 点 ~ 39 点	37	15	179	B 348	
40 点 ~ 49 点	79	107	346		
50 点 ~ 59 点	155	202	537		
60 点 ~ 69 点	244	608	527	A 433	
70 点 ~ 79 点	258	633	352		
80 点 ~ 89 点	147	814	93		
90 点 ~ 100 点	33	130	8		
計	959	2,514	2,130	967	433
対前試験比率		262.1%	84.7%	45.4%	44.8%
午前免除者 (概数)	1,903	66.5%			

合格者数	433	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	682	71.1%	249
午前 II 60 点以上合計	2,185	86.9%	1,752
午後 I 60 点以上合計	980	46.0%	547
午後 II-A 評価	433	44.8%	0



新試験制度で春期の試験で午前 I 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 1,903 人 (66.5%) おり、7 割弱の人が午前 II からの受験となりました。

得点分布を分析してみると、高度系共通の午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 682 人 (受験者の 71.1%) で、この結果は前回の 76.7% に比べて少し下がっています。問題自体の難易度はあまり変わらないと考えられますが、基礎理論の問題がやや難だった影響が出た可能性があります。また、午前 II 試験で基準点以上の人は 2,185 人 (受験者の 86.9%) でした。前回は 77.7% と高い比率でしたが、今回の問題は前回に比べるとさらに解答しやすい内容だったといえます。

午後 I で基準点 (60 点) 以上の得点者は 46.0% で、前回の平成 28 年春試験の 49.6% とほぼ同じです。また、午後 II で合格点の A 評価だった人は 44.8% で、去年の 41.6% から若干上がっています。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、次回試験の対策として、専門知識分野で「午前試験で出題される知識の理解度をまず上げる」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」のがよいでしょう。

高度系試験は午後試験対策が合格の鍵を握っています。受験される方は、次回試験に向けて早めに対策を始めてください。

■平成 29 年春期 システム監査技術者試験の出題内容について

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

- 高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。今回の問題内容は、計算問題が 2 問 (前回 5 問) と減りましたが、基礎理論の考察問題が例年どおり少し難しいことから、全体に少し難しく感じた受験者が多かったと思われます。

- 過去問題の比率は約 6 割で従来どおりの比率です。
- 分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されていますが、重要な内容 (中分類) からは複数出題されています。現在はセキュリティ分野を重視

した出題になっており、出題数は前回と同じ4問でした。

・新傾向問題は次の4問で、前回より増えています。システム開発分野の問題で、アジャイル関連の内容は、そろそろ定番化してきているといえます。

(新傾向問題)

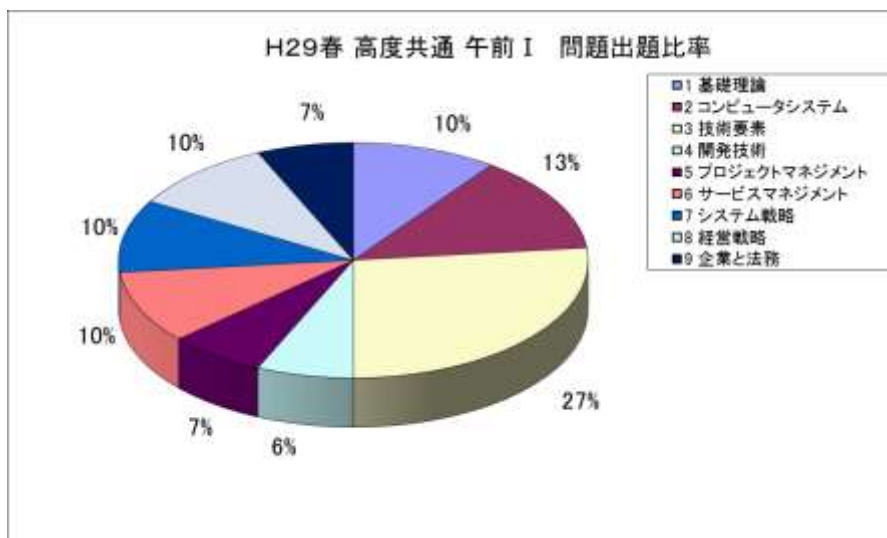
問 11 OpenFlow を使った SDN の説明

問 14 サイバーセキュリティ経営ガイドラインの説明

問 17 アジャイル開発で“イテレーション”を行う目的

問 26 浸透価格戦略の説明

平成 29 年春期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率

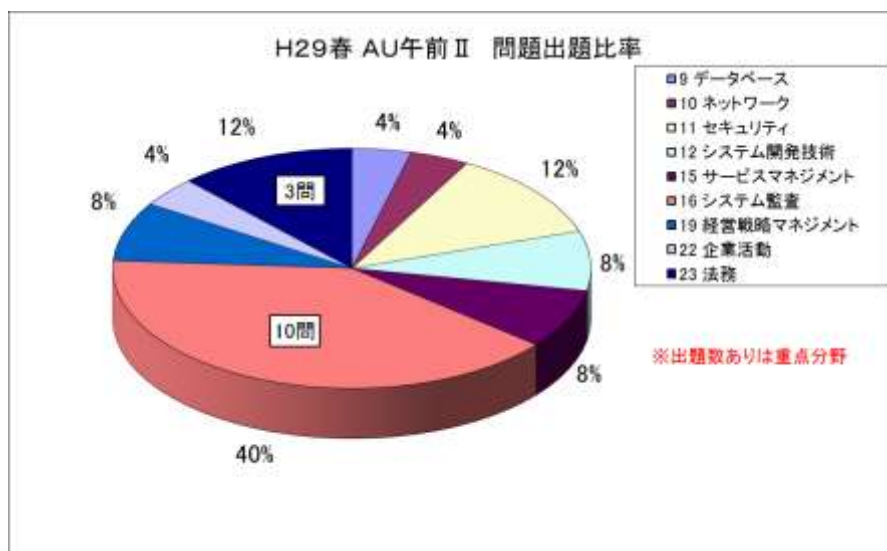


(午前 II の専門知識問題)

監査の専門分野からの出題数は10問で、前回の12問から減りましたが、セキュリティと法務の問題が1問ずつ増えました。

システム監査の事例では、ネットワークやセキュリティの技術を理解している必要があるものが多いので、不足している知識については、日頃から知識を身につけていく必要があります。

平成 29 年春期のシステム監査技術者試験 午前 II 問題出題比率



過去のシステム監査技術試験問題の出題は 11 問ありました（前回 9 問）。また、新傾向問題としては今回少なく、次の 1 問だけでした。

問 11 JIS Q 20000-2:2013 による SLA の作成指針

次に、午後 I と午後 II 試験の分析結果をお知らせします。

〔午後問題〕

・午後 I 問題の出題分野とテーマは次のとおりです。今回の試験問題で事例を理解するのに技術知識が必要なものは特になく、過去に類似の問題があるような問題でした。

問 1 在庫管理システム統合計画の監査（機械部品販売会社）

システム統合計画、予備調査のインタビュー、リスク及びコントロール、在庫データの統合不備、職務分離のコントロール、長期滞留品の抽出漏れ確認の監査手続き、プロジェクトチームへの確認事項

問 2 システム開発における品質管理の適切性監査（金融システムの開発運用会社）

品質管理の状況、品質管理基準、詳細設計工程の完了判定とその確認、レビュー指摘件数の確認、完了判断の確認内容、監査手続きの改善点と理由、品質管理部へのヒアリング確認内容

問 3 制御ネットワーク及び制御システムの監査（石油精製会社）

ネットワークの統合、システム連携、予備調査、本調査の発見事項、管理規程の確認、想定したセキュリティインシデント、査閲すべき文書、補完的コントロール、不正アクセス対策確認の監査手続

・午後 II 問題の出題分野とテーマは次のとおりです。今回、2 問ともセキュリティ関連のテーマだったことが特徴といえます。なお、問 1 の設問イ、ウは、実施状況を確認する監査手続をそれぞれ別の対策ごとに記述するもので、前回初めて現れた出題パターンといえます。

問 1 情報システムに関する内部不正対策の監査について

内部不正発生で重大な影響を及ぼすシステムの概要、内部不正が発生した場合の影響、内部不正の技術的対策の実施状況を確認する監査手続（内部不正の特徴を踏まえた留意点）、組織的対策の実施状況を確認する監査手続（内部不正の特徴を踏まえた留意点）

問 2 情報システムの運用段階における情報セキュリティに関する監査について

システムの概要、ビジネス上の役割、システムのセキュリティレベル、運用段階でセキュリティレベルが維持できなくなる要因とコントロール、コントロールが有効に機能しているか確認する監査手続

(今回合格された人)

今回見事合格された方で、17 秋期試験で情報処理安全確保支援士・ネットワークスペシャリスト・IT ストラテジスト・システムアーキテクト・IT サービスマネージャの試験合格を目指す方は、午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識について、なるべく早く試験対策を開始してください。まずは各試験の専門分野の基本的な問題（応用情報技術者試験の問題）から解いてみましょう。

高度系種別を受験するにあたっては、出題範囲を網羅した通信教育の『午前Ⅰ免除コース』がおすすめです。基礎から段階的に知識の積み上げを行いたい方には「書籍」「WEB 教材」「WEB テスト」「公開模試」の合格のために必要な知識を体系立てて身に付けることが可能なコース学習『スタンダードコース』がおすすめです。

その他、学習にあたっては、午前試験対策に重点をおいた『宿題メール』。午後試験対策には、受験対策のプロ講師から直接学べる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』など、学習アイテムを豊富に取り揃えております。午前Ⅰが免除になり、かつこれまでの学習で身に着けた知識が鮮明なうちに次の資格試験にチャレンジすることが、合格への近道です。次のステップアップを目指しましょう。

(今回残念ながら不合格だった人)

まず、午前Ⅰの試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が重要です。時間のない方は、「応用情報・高度共通 午前試験対策」の書籍を活用し出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。

今回の午前Ⅰ・Ⅱ試験の得点が 50 点～59 点だった方は、合格ラインまで“あと一歩”のところまで実力がついていきますので、身に付けた知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

午後試験の得点が 60 点未満だった方は、まず午前Ⅱの「専門知識」の内容に関して、試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受験するなど、本番を想定した学習を行うが効果的です。

再受験のための学習にあたっては、弱点補強中心に学習を行いたい方やすでに教材をお持ちの方はトレーニング問題とポイント解説、午後の音声講義によるポイント解説などの充実したコンテンツの『プラクティスコース』、講師から直接指導を受けることでその場で自身の弱点分野を把握、克服ができる『合格ゼミ 午後試験対策セミナー』がおすすめです。

その他、各種豊富な学習メニューを用意しております。

<http://www.itec.co.jp>